

第 29 回日本保健科学学会学術集会 日程表

		エントランス	大視聴覚室	大視聴覚室ラウンジ（ポスター会場）
9:00				
	9:15	受付開始		ポスター張付開始
9:30		機器展示	シンポジウム 9:45～11:00 「イノベーションと保健科学」 シンポジスト： 田島 英朗（放射），織井 優貴子（看護）， 松田 雅弘（理学），井上 薫（作業） 司会：新田 収	
	9:45			
10:00				
10:30				
11:00	11:00		市民公開講座 11:00～12:00 「がん治療と放射線治療の最前線」 講師：待鳥 裕美子 司会：齋藤 秀敏	
11:30				
12:00				
	12:10		日本保健科学学会優秀賞・奨励賞受賞講演 12:10～12:40	
12:30				
13:00	13:00		一般演題発表（口述 看護） 13:00～14:10	ポスター発表 13:00～16:00
13:30				
14:00				
	14:12		一般演題発表（口述 理学・作業） 14:12～14:58	
14:30				
15:00	15:00		一般演題発表（口述 放射） 15:00～16:22	
15:30				
16:00				
16:30	16:30		閉会式（学術集会長賞・ポスター賞表彰） 16:30～16:50	ポスター撤去
17:00				
17:30				

シンポジウム 9：45～11：00 大視聴覚室

「イノベーションと保健科学」

「高齢者ケア領域におけるロボット導入によるイノベーション」

井上 薫（首都大学東京大学院人間健康科学研究科作業療法科学域）

「シミュレーション教育と看護イノベーション」

織井 優貴子（首都大学東京大学院人間健康科学研究科看護科学域）

「ロボットとシステムを活用した理学療法の展開」

松田 雅弘（順天堂大学保健医療学部理学療法学科）

「認知症早期診断に向けた PET イノベーション：ヘルメット型 PET 装置開発」

田島 英朗（量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所）

司会：新田 収（首都大学東京大学院人間健康科学研究科理学療法科学域）

シンポジウム-1

高齢者ケア領域におけるロボット導入によるイノベーション

○井上 薫 1)

1) 首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 作業療法科学域

近年、医療・介護分野で活用可能なロボットが製品化され、ケアの手段の一つとして活用されている。筆者は高齢者施設におけるコミュニケーション・ロボット（以降ロボット）の活動の効果に関する研究に取り組んできた。一連の活動を通し、①ロボットは一部の高齢者により活動・参加の機会を提供するがその効果は個人差があり、②施設によりロボットの受け止め方や活用状況が異なることがわかった。Schumpeterによれば、イノベーションとは、新しいものを生産する、あるいは既存のものを新しい方法で生産することであり、生産とはものや力を結合することであるが、その意味は技術革新以外にも幅広い意味をもつ。ここでは、高齢者ケア領域におけるロボットの導入というテーマを切り口として技術革新と組織に与える影響に焦点をあてて高齢者ケア領域のイノベーションの現状を検討する。

シンポジウム-2

シミュレーション教育と看護イノベーション

○織井 優貴子 1)

1) 首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 看護科学域

看護基礎教育や看護継続教育に等身大でコンピュータ制御の人体型モデル人形＝シミュレータを用いることが有用であることはよく知られるようになりました。しかし、シミュレータを用いることがシミュレーション教育であるという誤解もあります。

「イノベーション」の概念は、革新だけではなく、新しい製品の導入や新しい組織形成も含まれています。看護教育のためにシミュレーション教育に選択する教材「人体型モデル人形（シミュレータ）」の導入は、新しい製品の導入のみではなく、新たな教育組織の形成がなされなければ「看護イノベーション」にはなり得ないと考えます。

新設の看護系大学では、まさに「看護イノベーション」として、新たな教育教材を導入し縦割りの教育組織から領域連携型の教育組織形成に変化しつつあります。

今回は、「看護イノベーション」としての「シミュレータ」の導入と新たな組織形成の可能性について述べます。

シンポジウム-3

ロボットとシステムを活用した理学療法の展開

○松田 雅弘 1)

1) 順天堂大学 保健医療学部 理学療法学科

先進的な技術革新によって保健医療のサービスも年々変化しており、特にロボット分野や人工知能（AI）、情報通信技術（ICT）などの情報システムの発展によって、身近にもイノベーションは起きている。私自身、脳性麻痺（子ども）・脳卒中患者に対してロボットスーツ HAL®を使用した治療展開を実践してきたが、最大限に効果を引き出すために歩行機能の改善を意図したロボットを使った効果的な治療展開について考えたい。また、半側空間無視、失語症、TMT に対するアプリケーションを工学部の研究者と共同開発を行って、病院で実証研究を積み重ねてきた。システムを活用することで、今まで可視化できなかったデータを簡易的に取得できるが、そのデータの活用方法が今後の課題となってくる。様々な機器やシステムの技術革新は起きているが、その利活用に関しては十分進んでおらず、効果と限界を適切に把握していなければ、これらは十分活用できるものではない。技術のイノベーションだけでなく、それを活用する現場の環境や人材育成も重要となってくる。

シンポジウム-4

認知症早期診断に向けた PET イノベーション：ヘルメット型 PET 装置開発

○田島 英朗 1)

1) 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所

高齢化社会が進む現在、認知症対策は喫緊の課題であり、様々な診断方法や治療薬の研究開発が行われている。中でも脳 PET（Positron Emission Tomography）は、脳機能や病態に関連した生理学的変化を捉えることができ、アルツハイマー病の診断薬の開発も進められており早期診断が可能になると期待されている。量研・放医研では、脳機能測定に特化した新しい検出器配置の頭部専用 PET 装置「ヘルメット型 PET」を提案し、研究開発を進めている。ヘルメット型 PET は、通常円筒状に配置する検出器を、頭部形状に沿った半球状に配置することで、少ない検出器数で感度を効率よく向上させることが可能である。これまでに、量研・放医研独自の DOI（Depth-of-Interaction）検出器を用いて第一試作装置開発を行い、高分解能と高感度の両立が可能であることや、実際の臨床試験が可能であることを実証した。また、実用化に向けた第二試作装置開発を、近年発展が著しい TOF（Time of Flight）計測が可能な検出器を用いて行い、高画質のイメージングが可能であることを実証した。本講演ではヘルメット型 PET 装置の研究開発について報告する。

一般演題発表プログラム

口述発表

セッション1 看護

13:00 ~ 14:10 大視聴覚室

- O-01 妊娠期から産褥期にかけての不安とその環境因子の関連性から見えた
介入方法の検討 手面 育慧
アルテミスウイメンズホスピタル
- O-02 訪問看護師による認知症高齢者への排便援助の現状や困難についての
文献検討 瀧井 望
首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 看護科学域 博士前期課程
- O-03 総合周産期母子医療センターに勤務する助産師の仕事意欲とその要因 秋山 奈緒子
日本大学医学部附属板橋病院
- O-04 聴覚障害のある妊産婦への支援の実践 (実践報告) 菊池 理紗
社会福祉法人聖母会 聖母病院
- O-05 実践経験者をファシリテーターとした急性期医療現場の4職種
(NPRO) 連携演劇ワークショップ型教育プログラムに参加した学生 重光洋亮
の経験
日本赤十字社医療センター
- O-06 実践経験者をファシリテーターとした急性期医療現場の4職種
(NPRO) 連携演劇ワークショップ型教育プログラムに参加したファ
シリテーターの経験 三浦里織
首都大学東京大学院人間健康科学研究科

セッション2 理学・作業

14:12 ~ 14:58 大視聴覚室

- O-07 ワーク・ライフ・バランスに関する文献レビュー - 構造方程式モデ
リングを用いた国内外の研究動向 - 山田 優樹
首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 作業療法科学域 博士前期課程
- O-08 潜在ランク理論による維持期脳血管障害高齢者の活動に関する順序性
の検討 高橋順一
地域ケア経営マネジメント研究所
- O-09 認知症高齢者の行動症状に関する因子構造の検討 出井涼介
地域ケア経営マネジメント研究所
- O-10 手指運動の視覚性運動錯覚時に生じる脳血流量の変化はfNIRSで捉え
られるか 酒井克也
首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 理学療法科学域

セッション3 放射

15:00 ~ 16:22 大視聴覚室

- O-11 円形エッジ法を用いたガウス関数近似による CT の線広がり関数測定 篠原広行
首都大学東京, 昭和大学藤が丘病院放射線科
- O-12 大腰筋の定量的触診を可能にする新しい MR エラストグラフィ技術 沼野智一
首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 放射線科学域
- O-13 モンテカルロシミュレーションを用いた電離箱線量計のケーブル漏電
の推定 山内遼平
聖路加国際病院
- O-14 MR 一体型画像誘導放射線治療装置におけるオシロスコープを使った
ビーム制御遅延時間の評価 中山 広貴
首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 放射線科学域、国立がん研究センター中央
病院 放射線品質管理室
- O-15 2 種類のポリマーゲル線量計を用いた MR 画像誘導放射線治療装置の
品質保証に関する基礎研究 竹森 望弘
首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 放射線科学域 博士前期課程
- O-16 放射線治療装置の動作ログ解析に基づく強度変調回転治療の線量検証
の有用性 宮阪遼平
首都大学東京大学院 人間健康科学研究科
- O-17 物理線量による炭素線ミニビーム照射法の有用性の検討 大田 朝宏
首都大学東京 人間健康科学研究科 放射線科学域
- O-18 リニアックから照射される MV X 線のエネルギースペクトル直接計測
に関する研究 須田雄飛
首都大学東京 人間健康科学研究科

ポスター発表

13:00 ~ 16:00 大視聴覚室ラウンジ

- P-01 放射光を用いた位相コントラスト画像法のためのアナライザー設計と
暗視野条件における軟組織像描写 森 浩一
茨城県医療大学
- P-02 PHITS を用いたデジタルプレストトモシンセシスの数値シミュレーションにおける誤差と投影データの関係 大塚 郭貴
首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 放射線科学域
- P-03 4, 6, 10MV X 線に対する 2 次元 Al₂O₃ TLD のエネルギー依存性 柳澤伸
首都大学東京大学院 人間健康科学研究科
- P-04 放射線治療における 2 次元バーコードを使用した患者固定具認識システムの開発 江面崇智
首都大学東京大学院 人間健康科学研究科
- P-05 ソレノイド磁場を用いた電子線の収束制御シミュレーション 中尾美波
首都大学東京大学院人間健康科学研究科放射線科学域
- P-06 3D プリンタを使用したマルチモダリティ用血管動態ファントムの作成 三井勇毅
首都大学東京大学院
- P-07 高エネルギー電子線の偏向に関するシミュレーション 今井諒
首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 放射線科学域
- P-08 NIRS データ収集範囲の違いによる高次脳活動時高濃度酸素吸入効果の比較 関根 紀夫
首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 放射線科学域
- P-09 分娩期の産婦に満足をもたらす助産ケアに関する文献検討—出産場所ごとの比較— 森 晴加
東京北医療センター
- P-10 子ども立ち会い分娩が及ぼす子どもへの影響と支援 片岡陽
社会福祉法人聖母会 聖母病院 看護部
- P-11 妊婦の体重コントロールに影響を与える要因に関する文献検討 三澤結衣
板橋中央総合病院
- P-12 助産所における分娩管理の実際—事例の分析— 高島茉里奈
石井記念愛染橋附属愛染橋病院
- P-13 立ち会い分娩が夫の心理に及ぼす影響と支援 佐藤栞
日本赤十字社 葛飾赤十字産院
- P-14 保健師・助産師・看護師が行っている特定妊婦に対する支援 江崎美奈
立川相互病院 産婦人科

- P-15 日本人女性の分娩施設選択理由に関する文献検討 金田千弥
東京都保健医療公社 豊島病院 看護部
- P-16 新生児搬送によって母子分離を経験した母親の思い 栗山 萌
社会医療法人社団健生会 立川相互病院 4 階東病棟
- P-17 助産師による骨盤位に対する妊娠期のケア 田中美緒
葛飾赤十字産院
- P-18 妊産婦の出産施設選択におけるニーズの文献検討について 藤林京美
一般財団法人神奈川県警友会けいゆう病院
- P-19 外来化学療法を受ける患者への訪問看護師の関わりについての文献検討 塩山 里英
首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 看護科学域 博士前期課程
- P-20 児童発達支援事業で働く職種の専門性に関する研究の動向 原島郁実
首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 看護科学域
- P-21 在宅療養を支える外来看護の実践と課題～文献検討から～ 佐藤知恵
首都大学東京人間健康科学研究科看護科学域 在宅看護分野博士前期課程
- P-22 独歩を獲得した健常幼児における靴の特徴の調査 高木健志
目白大学保健医療学部理学療法学科
- P-23 介護予防教室に参加した高齢者の運動イメージと運動機能 平野恵健
日本医療科学大学 保健医療学部 リハビリテーション学科
- P-24 理学療法課程の学生における状態-特性不安と実技試験時のストレス 谷出敦子
首都大学東京大学院 人間健康科学研究科
- P-25 小児理学療法分野における研究報告の動向―単施設研究の課題― 楠本泰士
東京工科大学
- P-26 脳性麻痺痙直型両麻痺患者におけるインソールの有無における動的立位バランスの特徴 楠本泰士
東京工科大学
- P-27 理学療法学生の短期臨床実習における実習形態の違いが心理状態に及ぼす影響 楠本泰士
東京工科大学
- P-28 Literature Review about Use of Assistive Technology for Filipinos with Spinal Cord injury from an Occupational Justice Perspective Daryl Patrick G. Yao
MSOT Student, Tokyo Metropolitan University
- P-29 スマートデバイスを用いた知的対話システムの開発 ―包括的な高齢者支援情報環境の構築に向けて― 鈴木健太郎
杏林大学保健学部

- P-30 在宅脳血管障害者に対するビジュアル・ナラティブの有用性 竹内幸子
学校法人日本リハビリテーション学舎 社会医学技術学院作業療法学科
- P-31 就学移行期における発達障害児の母親の体験～文献研究～ 田村彩
首都大学東京大学院人間健康科学研究科作業療法学域
- P-32 認知リハビリテーションが注意機能に与える影響について－神経生理学的検討を対象とした文献研究－ 有澤利顕
首都大学東京大学院人間健康科学研究科作業療法学域博士課程前期
- P-33 2009～2019 年に掲載された急性期における高齢者を対象とした作業療法実践の文献レビュー-価値ある作業に焦点をあてた実践と機能訓練に焦点をあてた実践の比較- 本田 拓也
首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 作業療法学域 博士課程前期
- P-34 住宅改修が対象者にもたらす効果 -文献調査より- 田中葵
首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 作業療法学域
- P-35 地域高齢者にとって大切な作業の性質についての検討-計量テキスト分析を用いて- 武田 将
首都大学東京大学院人間健康科学研究科作業療法学域博士前期課程
- P-36 学校作業療法士に求められるコンピテンシー-学校適応支援を目的とする海外の作業療法- 助川文子
東京家政大学

演題発表要項

【口頭発表】

・口頭発表は1演題につき、発表時間7分、質疑応答3分です。発表形式は、Windows版 PowerPoint (pptx ファイル) による PC プレゼンテーションとします。Macintosh をご使用の場合は、必ずご自身の PC と HDMI への変換機器をお持ちください。いずれの場合も、学術集会当日の発表 30 分前までに発表受付にてファイルの動作確認をお願いいたします。

・研究倫理・利益相反に該当する演題は、必ず発表スライド・ポスターにその旨を明記してください。詳細については、発表要項を後日メールで連絡します。

【ポスター発表】

・指定された時間はポスターの前で待機をお願いいたします。来場者にご説明をお願いいたします。

・研究倫理および利益相反に該当する演題は、必ずポスターにその旨を明記してください。

・ポスター発表は、11 時 00 分より受付を開始し、12 時 30 分までに掲示を完了してください。ポスター撤去時間は 17 時 30 分～18 時 00 分までといたします。18 時 00 分を過ぎても掲示されているポスターは実行委員会にて処分いたしますので、予めご了承ください。

・本大会では、優れたポスター発表を選考し表彰する制度を設けました。振るってご参加下さい。なお、ポスター賞は、全てのセッション終了後に発表いたします。

【ポスターパネル】

・1 演題につき、横 900 mm×縦 2000 mm のスペースを実行員会が準備します。ポスターは、横 900 mm× 縦 1350 mm 程度を推奨サイズといたします。

・スペースには、演題番号を掲示してありますので、間違いなくご自分の演題番号のある場所にポスターを貼り付けてください。

・演題番号、掲示用のテープ類は、実行員会が準備致します。

6. 学会集会に関する連絡・お問い合わせ先

演題申込など学術集会についてのお問い合わせは、下記の第 29 回学術集会実行委員会まで、電子メールでお問い合わせください。

